



## 学術的活動の拡充へ連携

公益社団法人 日本測量協会

会長 清水 英範

新年にあたり、当協会の今後の一つの重要な課題、目標について述べたいと思います。

当協会は、創立 60 周年を迎えた 2011 年に、日本学術会議から協力学術研究団体（いわゆる学会）の指定を受けています。当協会の正会員数は 1 万名を超えますから、規模的には全国有数の学会と言ってもよいかと思えます。

もちろん、学会になることを目標に活動してきたわけではありません。当協会は測量・地理空間情報に関する教育・研修と測量機器・成果の検定を中心事業としながら、この分野の発展に寄与する様々な活動を鋭意実施してまいりました。その結果、学会の活動とも言える活動が徐々に充実してきたということです。

実際、学会として見ればまだまだ不十分な点がたくさんあります。例えば、測量・地理空間情報系の関連学会は規模的には決して大きくありませ

んが、学会としての十分な実績をもち、論文誌の発行や学術講演会の開催などの学術的な活動が盛んです。それに対して、当協会の活動は残念ながら、決して活発な状況にありません。

その一方、当協会は測量士や技術士の国家資格を補う資格制度を立ち上げており、測量系 CPD 協議会の運営も担っています。これらは伝統ある大学にも匹敵する活動であり、規模の面で単独でこのような活動に取り組むのが難しい関連学会への支援になっていると考えています。

これから日本測量協会は、会員の皆様に当協会を学会としても有意義に活用していただけるよう、学術的な活動を拡充、発展させていきたいと思えます。また、資格制度や CPD 制度の充実などを通して関連学会への支援を強化するとともに、関連学会と綿密に連携した新規事業にも取り組んでまいりたいと思えます。